

平成 18 年度中間期（平成 18 年 9 月期）決算に関する主な質疑応答

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

本日発表致しました平成 18 年度中間期（平成 18 年 9 月期）の業績に関しまして、皆様からお問い合わせの多いご質問への回答を、以下の通り掲載致します。

1. 平成 18 年度中間期 SMBC 業績関連

Q. 業務純益（一般貸倒引当金繰入前）の前年同期比増減要因について説明して下さい。また、期初予想対比の増減要因についても説明して下さい。

A. 業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、前年同期比 1,626 億円減益の 3,116 億円となりました。

これは、円・ドル金利の上昇を踏まえた債券ポートフォリオの圧縮等に伴って、国債等債券損益が前年同期比 901 億円減益の 617 億円の損失となったこと等により、市場営業部門収益が前年同期比約 1,200 億円減少したことを主因に、業務粗利益が前年同期比 1,575 億円の減益となった一方、経費が 51 億円増加したことによります。

なお、期初予想対比では、債券売却損を計上したこと等によって粗利益が 1,109 億円の減少となった一方、経費が 25 億円の減少となったことから、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は 1,084 億円の下振れとなっております。

Q. 経費の状況はどうか？

A. 平成 18 年度上期の経費は、前年同期比で 51 億円増加し 2,975 億円となりました。これは、個人のお客さまに対するプロモーション強化や、中堅・中小企業向け貸出金の増強に向けて、重点分野へ経費を積極的に投入したこと等によるものです。なお、平成 18 年 9 月末の従業員数（就業者数）は、前年同期比 120 名減の 16,686 名となっております。

Q. クレジットコストは 332 億円と、昨年度（上期 1,297 億円、通期 2,309 億円）

対比大きく減少し、期初予想（上期 850 億円）対比でも 518 億円下回っていますが、その要因を教えてください。

A. 平成 18 年度上期のクレジットコストは、売却や回収による問題先への与信残高圧縮の他、取引先企業の再建の進展に伴う債務者区分の改善による引当金の取崩しがあったこと等から、前年同期比 965 億円改善の 332 億円と、期初予想を下回る実績となりました。

Q. SMFG 連結ベースでのクレジットコストの金額を教えてください。また、SMBC 単体ベースとの差額の要因について説明してください。

A. 平成 18 年度上期のクレジットコストは SMFG 連結ベースで 580 億円、SMBC 単体ベースは 332 億円となり、SMFG 連結と SMBC 単体の差額は 247 億円となりました。

この差額の大半は、みなと銀行、関西アーバン銀行等貸出業務を行う子会社、及びクレジットカード業務、リース業務を営む子会社での与信関係費用によるものです。SMBC 単体同様、グループ会社についても、前年同期に比べ概ね改善しております。

2. SMBC バランスシート関連

Q. 貸出の増減状況及びその要因について教えてください。

A. 平成 18 年 9 月末の貸出は、平成 18 年 3 月末対比、国内（除く特別国際金融取引勘定）で約 10,400 億円の増加、海外（含む特別国際金融取引勘定）で約 1 兆円の増加となっており、トータルでは約 20,400 億円の増加となりました。

国内貸出は、大型買収案件関連の貸出や不動産ノンリコースローンの増加等、また、海外貸出は、格付けの高い企業向けの貸出やプロジェクトファイナンス等の増加等を主因に増加しております。

Q. 金融再生法開示債権の残高と引当率の状況について教えてください。

A. 平成 18 年 9 月末の金融再生法開示債権残高は、再生努力が実を結び、債務者区分が上方遷移したものがあつたことに加え、引続き担保不動産の売却による

回収やバルクセール等により、与信残高の圧縮に努めたことから、平成 18 年 3 月末比 934 億円減少し、8,667 億円となりました。この結果、平成 18 年 9 月末の不良債権比率は平成 18 年 3 月末比 0.2%ポイント低下の 1.5%となっております。

なお、開示債権残高減少の内訳としては、破産更生債権及びこれらに準ずる債権が 285 億円の減少、危険債権が 483 億円の減少、要管理債権が 166 億円の減少となっております。

また、平成 18 年 9 月末の債務者区分別の非保全部分に対する引当率は、破産更生債権及びこれらに準ずる債権が 100%、危険債権が 98.9%、要管理先債権が 46.1%となっており、18 年 3 月末対比で、危険債権が 1.1%ポイントの低下、要管理先債権が 6.5%ポイントの低下となっております。また、開示債権全体の非保全部分に対する引当率は 74.0%と、平成 18 年 3 月末対比で 6.4%ポイントの低下となっております。

Q. 平成 18 年 9 月末の繰延税金資産の計上額はいくらですか。増減要因を教えてください。

A. 平成 18 年 9 月末における繰延税金資産の計上額は、平成 18 年 3 月末対比で 870 億円減少し 8,892 億円となりました。これは、主として税引前当期利益を計上したことにより繰延税金資産の回収が進んだことによるものです。

Q. 自己資本比率規制における自己資本のうち、基本的項目 (Tier I) に占める繰延税金資産の比率は、SMFG 連結ベースでいくらですか。

A. 平成 18 年 9 月末における SMFG 連結の繰延税金資産 (繰延税金負債控除後) は、平成 18 年 3 月末対比で 287 億円減少し 9,734 億円となりました。一方、SMFG 連結の自己資本のうち基本的項目 (Tier I) の残高は、公的資金返済を主因として平成 18 年 3 月末対比で 9,082 億円減少し、3 兆 7,377 億円となりました。

この結果、平成 18 年 9 月末における繰延税金資産 (繰延税金負債控除後) の Tier I 資本に占める比率は 26.0%と、平成 18 年 3 月末対比で約 4%ポイントの上昇となりましたが、平成 18 年 9 月末における自己資本比率計算上の算入上限であります 40% (平成 19 年 3 月末の算入上限は 30%) をクリアしております。

3. SMBC 業務戦略関連

Q. 中小企業向け無担保貸出の、平成 18 年度上期の取組額、及び平成 18 年度通期の取組見通しを教えてください。

A. 中小企業向け無担保貸出の平成 18 年度上期の取組額につきましては、前年同期比約 4,800 億円減少し、全体では約 1 兆 4,300 億円となりました。内訳は、ビジネスセレクトローン（BSL）が約 6,300 億円、クレセルローンが約 1,200 億円、N ファンド等の貸出が約 6,800 億円となっております。

平成 18 年度通期では、中小企業向け無担保貸出全体で 3 兆 6,000 億円程度の取組みとなる見通しです。

Q. 個人向けコンサルティングビジネスの実績について教えてください。

A. 個人向け投信販売につきましては、平成 18 年 9 月末の預かり資産残高は、平成 18 年 3 月末対比で約 1,600 億円増加し約 2 兆 9,600 億円となりました。個人年金保険の上期の販売額は、前年同期比約 880 億円減少し約 2,400 億円となりましたが、平成 14 年 10 月の取扱い開始以来の販売累計額は約 1 兆 9,600 億円となっております。

一方、住宅ローン（自己居住用）の上期の取組実績は、前年同期比約 400 億円減少し約 9,000 億円となりました。平成 18 年 9 月末の残高は、上期に約 4,400 億円の流動化を実施したことから、平成 18 年 3 月末比約 1,300 億円減少し約 9 兆 9,000 億円となっております。なお、ご好評を頂いております三大疾病保障付き住宅ローンの取組額は、平成 17 年 10 月の取扱開始以来本年 9 月末までの約 1 年間で、約 2,300 億円となっております。

4. 業績予想関連

Q. 平成 18 年度の SMFG 連結、SMBC 単体の業績予想を教えてください。

A. SMFG 連結の平成 18 年度業績予想につきましては、経常利益を期初予想対比 600 億円減額の 9,500 億円、当期純利益を期初予想と同じ 5,700 億円としております。また、SMBC 単体の予想としては、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）を期初予想対比 950 億円減額の 8,450 億円、経常利益を期初予想対比 200 億円減額の 7,600 億円、当期純利益を期初予想と同じ 4,600 億円としております。

Q. 平成 18 年度の SMBC 単体の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）予想について教えてください。

A. 平成 18 年度の SMBC 単体の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、当初業績予想比 950 億円減益の 8,450 億円の見込みです。これは、上期に、債券ポートフォリオのリスク圧縮を図り、債券売却損を計上したこと等から、通期の業務粗利益が 950 億円減益となる一方、経費につきましては、個人のお客さまに対するプロモーションの強化といった重点分野への経費投入により、期初予想通りの 6,000 億円を見込んでいることによります。

Q. 平成 18 年度の SMBC 単体のクレジットコスト見込みについて教えてください。

A. 平成 18 年度の SMBC 単体のクレジットコストにつきましては、期初予想対比 700 億円減額の 1,000 億円程度を見込んでおります。

5. SMFG 経営戦略関連、その他

Q. 今後、普通株式への配当方針はどうなりますか。

A. 平成 18 年度の普通株式配当金につきましては、株主の皆さまへの利益還元を強化する観点から、当初業績予想対比 3,000 円増額、前年比 4,000 円増額の 1 株当たり 7,000 円とさせて頂く予定です。

Q. 住友商事グループとのリース事業及びオートリース事業の戦略的共同事業化について教えてください。

本件に関する詳細につきましては、下記プレスリリースをご参照ください。

http://www.smfg.co.jp/news/j200046_01.html

Q. SMBCフレンド証券の完全子会社化について、教えてください。

本件に関する詳細につきましては、下記プレスリリースをご参照ください。

http://www.smfg.co.jp/news/j200028_01.html

http://www.smfg.co.jp/news/j200021_01.html

(ご参考:「平成18年度中間決算説明資料」20ページ)

24. 平成18年度業績予想

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

【単体】

(金額単位 億円)

	18年度予想	17年度実績	
		17年度比	
営業収益	3,700	3,146	554
経常利益	3,650	3,168	482
当期純利益	3,650	2,916	734

1株当たり期末配当

(金額単位 円)

	18年度予想	17年度実績	
		17年度比	
普通株式	7,000	4,000	3,000
第一種優先株式			10,500
第二種優先株式			28,500
第三種優先株式			13,700
第1~12回第四種優先株式	135,000	—	135,000
第1回第六種優先株式	88,500	—	88,500

<ご参考>

(金額単位 億円)

配当金総額	666	186	480
-------	-----	-----	-----

【連結】

(金額単位 億円)

	18年度予想	17年度実績	
		17年度比	
経常収益	37,000	△ 51	37,051
経常利益	9,500	△ 136	9,636
当期純利益	5,700	△ 1,168	6,868

<ご参考>

株式会社三井住友銀行

【単体】

(金額単位 億円)

	18年度予想	17年度実績	
		17年度比	
業務粗利益	14,450	△ 1,071	15,521
経費	△ 6,000	△ 135	△ 5,865
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	8,450	△ 1,206	9,656
経常利益	7,600	391	7,209
当期純利益	4,600	△ 595	5,195

与信関係費用	△ 1,000	1,309	△ 2,309
--------	---------	-------	---------

(注) 一般貸倒引当金繰入+臨時費用に含まれる不良債権処理額+特別利益に含まれる償却債権取立益